|  |  |
| --- | --- |
| 会議の名称 | 令和４年度　第１回　和泉市医療と介護の連携推進審議会 |
| 開催日時 | 令和４年 １１月 ４日（ 金 ）午後２時から３時３０分まで |
| 開催場所 | 和泉市役所庁舎本館３階　会議室３Ａ |
| 出席者 | 【委員】  （出席）  和泉市医師会（泉谷委員）  大阪介護支援専門員協会和泉市支部（松阪委員）  和泉市薬剤師会（北野委員）  和泉保健所管内訪問看護ステーション連絡会（上原委員）  泉州地域リハビリテーション地域支援センター（竹内委員）  和泉市立総合医療センター（村上委員）  公募市民（中委員）  公募市民（吉田委員）  桃山学院大学社会学部社会福祉学科（川井委員）  大阪府和泉保健所（狭間委員）  和泉市地域包括支援センター（迫田委員）  （欠席）  和泉市歯科医師会（上嶋委員）  公募市民（三好委員）  【事務局】  吉田副市長  福祉部（堂ノ上部長）  高齢介護室（藤波室長・岩橋課長・古川総括主幹・吉岡総括主査）  和泉市在宅医療介護相談支援センター　上村コーディネーター |
| 会議の議題 | １．会長・副会長の選任について  ２．令和３年度　和泉市医療と介護の連携推進事業活動実績について  ３．令和４年度　和泉市医療と介護の連携推進事業計画（案）について  ４．その他 |
| 会議録の  作成方法 | □全文記録　■要点記録 |
| 記録内容の  確認方法 | ■会議の議長の確認を得ている  □出席した構成員全員の確認を得ている  □その他（ ） |
| その他 | 会議公開  傍聴者０名 |
| 審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等） | |
| 別紙のとおり | |

審議内容

○事務局　令和４年度第１回和泉市医療と介護の連携推進審議会開会

* 副市長
* 医療と福祉の関係者は、現場の最前線で大変なご苦労されている
* 多忙を極める中、本審議会への出席に敬意
* 和泉市では平成２５年に和泉市民を中心とした医療と介護の連携推進条例という貴重な条例作成
* 地域包括ケアシステムの構築についての持論として卵の上と下の考え方
* 卵の上とは医療あるいは福祉の関係機関や様々な団体、事業所の連携
* 地域包括ケアシステムの構築には卵の上と下の合致が必要
* 配布のパンフレットでは、市民の役割に記載
* 地域住民同士の連携が構築されないと卵の上と下が組み合わさって、地域包括ケアシステムができない
* 和泉市では、校区社協を中心とする共助により、卵の下の部分の連携を作っていきたい
* 和泉市ではこの共助部分の一層の強化が必要という課題あり
* 今年度、各校区社協を中心とする協議の場の活性化のために協議の場に参加している
* 抽象論での地域住民との議論ではなく、具体的なテーマで接する必要あり
* ＡＣＰや災害時要援護者支援の問題
* 本日持参の赤十字ニュースという新聞コピーで人生会議（ＡＣＰ）の地域住民との議論といった地域福祉の文化を作っていきたい
* 元気なうちに知っ得講座の番号8に記載の人生会議（ＡＣＰ）も取り上げていきたい
* 事業者同士の連携、地域福祉の担い手の掘り起こし、あるいは地域住民の啓発といった問題・課題は大変な時間と労力がかかる仕事
* これから１年から２年は卵の下の議論がしっかりと和泉市にも根付き、地域福祉連携を下支えするような和泉市の文化、体制を作っていきたい

○事務局　委員の出席状況より本審議会が成立することを報告

○事務局　「議事１　会長・副会長の選任について」委員へ諮り、会長に泉谷委員、副会長に松阪委員が選任される

○会長

* 約３年間に渡るコロナ禍で地域包括ケアがなんとなく忘れられつつあるように思える
* こういう状況ですので、命を救うという方に目が行くのは当然だが、生活、リハビリ、食事、移動の自由といった人間の尊厳というのを忘れられているように感じる
* 新型コロナウイルス感染の収束が見えないが、地域包括ケアという大切なスローガンを思い出す時期
* 一方、自宅の方に戻る高齢者が非常に増え、在宅患者数や在宅の看取り数もコロナ禍が拍車をかけたのでは
* 自宅療養では多職種による様々な介入が必要
* ケア会議では、療養方針や先ほど副市長のお話に出た、いわゆる人生会議を行うということでは
* 非常に困難な状況下では、日々の対応に追われてしまい、包括的、長期的な視点を忘れがち
* もう一度立ち止まり、地域やあるいは社会のあるべき姿を見つめ直す必要があるのでは
* これまで、我々が長年蓄積した多職種間の連携を生かした対策と体制作りが非常に大事
* 今後さらに医療介護連携を推進し、行政と協力して高齢者の社会参加を促すだけでなく仕事、子育て、介護と療養支援を通じて、次世代の育成まで取り組むことが必要
* いわゆる全世代型、全対象型の地域包括ケアをめざす社会を作っていくことが必要

○事務局（高齢介護室）　「議事２　令和３年度　和泉市医療と介護の連携推進事業活動実績について」を資料1に基づき説明

○事務局（和泉市在宅医療介護相談支援センター）　「令和３年度実績報告について」スライドに基づき説明

○会長　ご意見、質問等確認するも意見・異議なし

「議事２　令和３年度　和泉市医療と介護の連携推進事業活動実績について」が承認

○事務局（高齢介護室）　「議事３　令和４年度　和泉市医療と介護の連携推進事業計画（案）について」を資料１に基づき説明

○会長

* 専門部会の計画だが、次年度の課題研修等についても意見・質問等を確認

○委員

* 令和２年度実績、エ項で人生会議（ＡＣＰ＊１）結果を本人、家族、医療介護専門職との共有のための手帳の検討にかかる課題と今年度の達成はどうか

○事務局（高齢介護室）

* 今年度は、手帳が市販されている状況を踏まえ、市として求められることを検討中
* 入退院地域連携会議での覚書を活用
* 知っ得講座で追加した人生会議（ＡＣＰ）等での意見により必要に応じて新たなものの構築をコーディネーター等と協議、検討中

○委員

* 審議会での課題について、方向性を明確にし、専門部会での検討により、さらに課題を見つけることが正しい流れでは
* ここ数年はコロナ禍等で審議会の開催時期もずれ、専門部会だけの稼働についての提言を審議会で行った
* 覚書きやＡＣＰ、副市長からの避難行動要支援者の話もある中、同じ目的であるはずが市の所管課によって動きがバラバラ
* 市民を中心に考えれば、１つの課題はまとめて話し合えるのが一番いい
* 難しいのであればこの場だけでも、今年の重点ポイントをイメージしたい
* 重点ポイントを審議会で練るという形かもしれないがそこまでも考えにくい
* ３年度の課題が出ているが４年度に重点的に動いていることがあるのか
* ５年度に持ち越すものもあると思うがどのように考えているのか

○事務局（高齢介護室）

* 人生会議（ＡＣＰ）について、専門職だけでなく、市民も巻き込んでいきたい
* 知っ得講座の項目に追加して、市民の方に周知啓発していければ
* 手法や知識等不足のところもあり、市民周知に関する助言等をいただきたい

○委員

* 積み上げについての振り返りは必要だが、手帳等単年での作成は内容的に難しいので３年計画とか期限を設けての検討が望ましいのでは
* 全くゼロからのオリジナルでなく、国の案をたたき台にして期限を決め、具体的な成果に向けて取り組むことも検討しては

○会長　覚書を活用して変更していくとか、まずは形にすることがいいのでは

○委員

* 市民への勉強会などの参加人数について、応募時点で人数を想定しているのか
* 対象市民や医療機関、介護施設、自宅療養の方への周知についてはどうか

○事務局（高齢介護室）

* カの医療介護関係者向けの研修会について、把握している関係機関や事業所等にＦＡＸ等で広く周知
* キの地域住民への普及啓発として地域出張型在宅医療介護セミナーと市民フォーラム等については、市のホームページ、広報等への掲載やチラシにより校区長会議で周知
* 人数の想定は、地域出張型在宅医療介護セミナーは２０名以上の団体が申込み、市民フォーラムは和泉市コミュニティセンターでの映画上映について、新型コロナウイルス感染対策として、会場の半分程度の定員

○委員

* 要請したい対象への広い周知について、どの部署でも広報というのが問題では
* せっかくのいい案なので出来るだけ多くの方に参加してほしい

○委員

* 急性期病院からの意見として、２０４０年問題としての多死社会が気になる
* 日本全体で1年間に１４０万人、和泉市も毎年約１，６００人が亡くなられている
* 繰り返し出てきているＡＣＰの話が、手帳の有無に関わらず、ＡＣＰの中身を決めないと高齢者の尊厳が守れない
* 救急車で急性期病院に運ばれてからのことについては高齢者の尊厳に関わると思うので、ぜひ進めてほしい
* 手帳をいきなり完成形にしようとするのではなく、仮のものを作り試行して、ブラッシュアップされてはいかがか

○会長

* お元気な方が多い後期高齢者に対しては心筋梗塞、脳梗塞といった急性疾患は増えてくると思う
* 医療だけで支えていいのかについては、本人や家族の感情でも変わるので国民の意識から乖離
* 急性期病院の方も、治す医療プラス支える医療の両方が必要になるので、完成品でなくてもいいので手帳あるいは覚書の作成に取り組む必要あり

○委員

* ＡＣＰにも関係するが今後、病院だけではなく、自宅で亡くなることが多くなってくる
* 実際、去年も自宅でのコロナ療養の際、スタッフが入れなかったりサービス利用できないことがあった
* 訪問看護以外のサービスが入れない、家族が熱を出すと利用者も濃厚接触者扱いでサービスが利用できない状況で、住み慣れた場所でそれまでの生活を支えるということを考えた時に、市立病院の認定看護師が施設等で感染の話をしてくださっているが、利用や訪問に関する正しい知識をサービス事業所に得てもらうこともサービス継続には必要。サービス事業所側の困った課題の把握も踏まえ、今後の活動方針や研修目的を明確にし、１、２年では無理でも３年後はできるように、まずここまで取り組みますと出した方がいい

○会長　他に意見ないため、議事３「令和４年度　和泉市医療と介護の連携推進事業計画（案）について」の承認について委員に確認

（異議なし）

「議事３　令和４年度　和泉市医療と介護の連携推進事業計画（案）について」が承認

○会長　「議事４　その他」について、委員から連絡事項などあるか

（意見等なし）

○会長　本日の案件は以上。事務局に返す

○事務局（高齢介護室）　本日の案件は以上でございます

○副市長

* 今後はＰＤＣＡをしっかり回さないといけない
* 現状と課題と合わせて目的と目標を掲げてスケジュールを立てて将来的な方向性を目指す
* 実績も含めて1つのシートにまとめられ、年度更新されて、審議事項として行政マネージメントを行う必要ありでイベントや行事についても同様
* ＡＣＰについては、看取りの負担が病院で今後、増加予想にも関わらず医療機関側から見たＡＣＰの課題を家族は病院に任せておけば安心だ、大丈夫だと期待しているところがあり、市民意識の改革や向上は必要
* 市民への働きかけは、行政としても強めていかなければならない
* いただいた宿題の答えは、次回の冒頭で報告して毎回の会議を進めなければならない
* ＰＤＣＡの文化が和泉市役所にも根付くように各部署に指示
* コロナ対策についても、行政が現場の生の声を聞いて施策を作り、ＰＤＣＡサイクルの文化を率先して作っていくことが必要

○事務局（高齢介護室）　これにて、令和４年度第１回和泉市医療と介護の連携推進審議会議業を閉会いたします